

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2693300119		
法人名	社会福祉法人 丹後大宮福祉会		
事業所名	グループホーム おおみや		
所在地	京都府京丹後市大宮町三坂132番地の3		
自己評価作成日	平成26年2月10日	評価結果市町村受理日	平成26年5月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kanji=true&amp;JigyosyoCd=2693300119-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kanji=true&amp;JigyosyoCd=2693300119-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年3月3日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人に合わせたケアを重点に、何ができるかを検討し取り組んで来ました。昔されていた畑作りに今年は多くのご利用者の方が何らかのかかわりを持っていただくことができ、職員と共に収穫を喜び合う事ができました。又、日頃のレク活動として、体操や合唱、魚釣りゲーム、しりとり等積極的に取り組む事が出来ました。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは「笑顔があふれ、お一人お一人が安心して暮らせる家」とホーム理念を掲げ、利用者が思いのままにホームでの暮らしを楽しめるよう職員間で連携しながら利用者の思いを大切にされた個別ケアに努めています。広くゆったりとしたホーム内の両サイドに設けられた談話コーナーにはミニキッチンがあり、家族の来訪時には気兼ねなく過ごせる空間となったり、利用者が静かに過ごしたい時の居場所になっています。食事は旬の物や畑の収穫物、頂き物を食材に使い、調理方法を利用者教わりながら作ったり、流しそうめんや餃子作りを共に楽しむなど豊かな食生活を提供しています。また地域の文化展や公園の花植えコンテストなど様々な地域行事に利用者参加したり、隣接する保育園児との交流など、地域の理解と協力の下に交流が広がっています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 グループホーム おおみや	いつでも確認出来る様、事務所内に掲示している。チーム目標や、人事考課の項目として取り上げ意識付け、実践できるよう努めている	開設時の職員で話し合い作ったホームの理念は事務所に掲示すると共に広報誌にも載せ地域の方へも発信しています。理念に沿って個々の職員が考えたチーム目標や事業計画は、定期的に実践状況を振り返り評価を行い確認しています。利用者が落ち着いてホームでの暮らしを楽しめるよう実践に活かしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事(納涼祭・秋祭り・地藏盆等)に積極的に参加している。保育園児との交流もあり、散歩中に挨拶したり、行事に参加させていただいたりしている。また、法人内の小規模多機能事業所利用者との合同行事や母体の喫茶にも参加し交流を深めている	地域の文化展への作品の出展や納涼祭、地藏盆に参加したり、秋祭りの神輿は利用者が見学できるようホームに立ち寄っています。地域の公園の花植えコンテストへの参加や保育園の運動会などの見学の他、散歩時に園児が立ち寄り交流したり、中学生の体験学習の受け入れもあり、交流の機会が多くあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主体で発信する事は出来なかったが、母体の地域交流委員会が取り組んでいる月1回小学校の一斉下校時に「見守り隊」として利用者と共に参加し声かけをしている。また、同委員会の開催する認知症サポーター養成講座に参加した		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市、地区、保育園の状況、予定等を確認し、交流やケアにつなげている。災害時のリスク管理の検討もしている	会議は家族や民生委員、保育所所長や区長、市職員等の参加を得て隔月に開催しています。ホームからの現況報告の後、介護保険施設の違いや火災時の対応について等、出された意見について話し合っています。他の地区からの参加者を増やす為のアドバイスなどをもらう等運営に活かせる有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回開催されている地域ケア会議や地域密着型サービス事業所管理者意見交流会へ出席し、各事業所、市と情報交換を行っている	運営推進会議に市職員の参加を得て実情を知ってもらっており、分からない事があれば窓口に出向いたり電話で相談しています。町主催の地域ケア会議の他にも市職員が参加する会議が複数あり、関わる機会も多く協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成26年1月に苑内で身体拘束についての全体研修があり、日頃のケアの見直しをした。配布された資料をもとにケア会議でも話し合い、職員の共通意識となるようにした。苑内の身体拘束ゼロ委員会にも出席し、言葉遣いについて検討し意識を高めた	身体拘束についての研修の受講や具体的に書かれた文書を職員に配布し周知しています。また法人の身体拘束ゼロ委員会の活動をホームの取り組みに活かしています。玄関は夜間以外は鍵を掛けず、出かけた方には自由に出てもらい職員が付き添っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会や全体研修への参加で理解を深めている。言葉遣いのチェックリスト等で意識を深め向上に努めたり、お互いが注意しあえるようケア会議内でも確認している		

グループホーム おおみや

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見人制度を利用している利用者がある為、ケア会議内で資料を配布し理解を深めている。実際に支援員や後見人との関わりを職員が行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の状況に合わせ、日程調整し十分な時間を取り説明している。その中で家族の思いを聴き、不安や疑問がある時は、時間をかけて丁寧に説明し理解してもらえよう努めた		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議録を全家族へ渡し、内容を確認してもらっている。意見等あれば、聞かせてもらえるよう、面会時等に尋ねるようにしている	家族の意見は面会時や往診時の立ち会い、運営推進会議の中などで聞いています。ホームへの感謝や満足感から意見は出にくい状況ですが、過去に火災時の不安の声があり、家族に訓練の様子を見てもらった経緯があり、意見が上げれば職員間で話し合い速やかに対応しています。また家族には忘年会時にスライド写真で1年間の利用者の様子を見てもらったり、報告や連絡を確実にい家族の安心に繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月2回のケア会議の中で意見を聞く機会がある。年度毎の事業計画作成時には職員からの意見を聞き反映させている	職員の意見は月2回のケア会議の中で聞いたり、利用者の担当制の他、園芸や広報、行事なども担当を決めており、それぞれ意見や提案を出しています。また職員が担当利用者について発表する機会もあり、資料作りの他、意見や考えを伝える事の難しさなどを学ぶ機会となっています。また施設長や管理者との面談の機会もあり意見を出せる機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し評価している。又、年に1回施設長との面談があり、思いや意見を述べる機会がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内研修が月に1度計画されており、参加できるよう勤務調整している。外部研修にも必要に応じて参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回市内、グループホーム管理者の意見交流会があり、運営や困難事例等、話す機会がある。又、介護職員も2ヶ月に1回交換研修を実施し、1日実習の中で他施設の良い点等学ぶ機会がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接で得た情報や入居後、家族面会時に得た情報等を参考にし、日々利用者の思いや要望に耳を傾け、関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しやすい雰囲気心を心がけ、家族の思いを聞き対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時の情報を基にケアプランを作成し、安心した生活を送れるよう支援している。これまでに、他のサービスを利用した事例はない		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人のADL、生活歴等に合わせ身の回りの事、食事作りの補助、洗濯物畳み、畑など出来る事、かつてされていた事を中心に無理のないよう援助している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へは面会時、受診時、又は電話にて利用者の状態を伝えている。利用者の様子に不安等ある場合は家族と相談し足を運んでもらうなど対応をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来られたり、馴染みの美容院を利用している。昔住んでいた地域にドライブに出かけたり、利用者が学生時代によく通った店へ時々出かけ、店主と昔話をする事がある	知り合いや近所の方の面会があった際は居室や談話室でお茶を出しゆっくり過ごしてもらうよう配慮しています。職員が付き添い昔よく行っていた店に好物を買いに行き店の方と会話を楽しんだり、自宅周辺のドライブや懐かしい場所を散歩したりしています。また馴染みの美容室に通えなくなった方は美容師にホームに来てもらうよう依頼するなど関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格、病気の関係もあり、馴染めない方も実際にあるが、職員が間に入る事や利用者同士の距離を調整することで関係が崩れないように支援している		

グループホーム おおみや

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までのところ、そのような事例はない。母体の特養に入居した利用者については、喫茶参加した時などは顔を見に行き、声かけや様子伺いをしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や様子等から、思いを把握しよう心がけている。又、家族の面会時にグループホームでの様子を伝え、家族に意向も聞き検討している	入居に向けて家族から生活歴など、家族が分かる情報を書いてもらったり、利用者や家族と面談し、暮らしの様子や生きがいなど、聞いた内容を入居に至るまでに職員間で情報を共有しています。入居後は日々の関わりの中で本人に聞いたり、関わった職員が利用者の言葉や様子などを記録に残し、ケア会議の中で思いの実現に向けて話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接で、在宅や老人保健施設等の施設利用時の様子や暮らしを聞き取り、把握に努めている。又、面会時、ケアプラン説明時には改めて本人が発した言葉から昔の様子を尋ねるなどしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月2回のケア会議にて各担当より、現在の利用者の状況、様子、気になること等を報告し、情報を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの見直しは、基本半年に一度行っている。状態の変化があった場合は家族、グループホームでの担当者、関係者と話し合い、現状に即したプランを作成している	本人や家族の希望、アセスメントした内容や日々の記録などを基にケア会議を開き介護計画を作成しています。担当者が毎月計画の実施状況を評価し、状態に変化がない場合は6か月毎に再アセスメントを行い介護計画を見直しています。必要に応じて往診時の医療情報や法人の理学療法士の指導内容なども反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアプランチェックと1ヶ月毎に短期目標の評価を行い、見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在までの事例がない為、今後、必要に応じて考えていく		

グループホーム おおみや

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区行事(地藏盆、納涼祭、秋祭り、市のイベント、民間のコンサート等)への参加や保育所との七夕行事、運動会を通して交流を深めている。また、合唱団や南京玉簾等ボランティアとの交流を楽しんでもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	新規入所時に家族の希望を聞き在宅時の主治医への受診が継続出来るよう調整している。利用者の歩行状態に合わせ、送迎対応する事で受診を継続している	ホームではこれまでのかかりつけ医を継続してもらうことを基本にしており、かかりつけ医は往診もあり連携を図っています。また家族との受診の際は口頭や文書で必要な情報を伝え、職員が同行する際も含めて受診結果はその都度家族と共有しています。緊急時は家族に連絡を取り、相談しながら対応を決めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域福祉部として、小規模多機能事業所の看護師へ必要に応じて相談、指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報提供(口頭、書面)を行い、退院時にはカンファレンス等に参加できるように家族や病院と連絡を取り合い、関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態や必要に応じて家族や主治医と相談し、対応について確認している。グループホームとして出来ることをその都度家族へ説明はしているが文書化した物はないため、今後の課題となっている	終末期支援については医療度が多くなると難しい状況ですが、できる限り利用者や家族の希望に沿えるよう努めています。時期が来たら医師の判断を仰ぎ、その時々で方針の話し合いを重ね、支援するには利用者が独りにならないよう家族が泊まり込むこともあります。状況によっては他の施設への申し込みも勧めながら、できる限りの支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	苑内研修において、年1回心肺蘇生の実践研修を全職員が受けている。また、感染症についても予防、実際の対応方法等を実践する研修を行った		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いのもと年2回避難訓練を実施している。注意点等を全職員が確認し対応出来るようにしている。3月には災害を想定した防災訓練も毎年行っている。また、地域との協力体制を運営推進会議において相談しかけたが、決定には至らなかった	年に2度、昼夜を想定した避難訓練を消防署の立ち会いの下に行い、通報や消火器の使い方、両サイドのテラスや外への避難誘導などを行っています。運営推進会議と合わせて行い民生委員や区長に訓練の様子を見学してもらったこともあります。また停電を想定した防災訓練も行っています。次年度は地域との協力体制作りに向けて運営推進会議で相談する予定としています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、失礼のないような言葉遣い、態度を心がけている。また、利用者の前では排泄確認の声かけ等しないよう配慮している	言葉使いについては身体拘束ゼロ委員会の取り組みの中にもあり、丁寧すぎず方言を交えながら利用者が分かり易い言葉かけに努めています。入室時やトイレ介助時の出入りの際は必ずノックをしたり、言葉が崩れた場合や不適切な対応があれば職員が互いに注意し合える環境を整えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の動作や会話の中から本人の思いや希望を聞き自己決定出来るよう助言している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで生活して頂けるよう一人一人の思いを聞き、買物・外出・入浴等状態に合わせて支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時等、可能な利用者には、自分で衣類を選び用意してもらっている。起床時や入浴後の整髪も鏡を見ながら自分でしてもらえよう援助している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、その方の好きなメニューにしている。行事食は松花堂弁当に盛り付け、目でも楽しんでもらっている。また、胡麻すりや盛り付け等の他、食器拭きや米とぎを日課にしている	利用者の希望や旬の物を取り入れて献立を立て、毎日利用者と買い物に出かけています。畑の収穫物や頂き物を食材としたり、調理方法を利用者には教わる事もあり、利用者にはできる事に携わっています。流しそうめんや手作り餃子、蕎麦などの外食も楽しんでもらっています。検食の職員が介助や見守りをしてしながら、個々に合わせて食事が楽しめるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	できるだけ食材が重ならないように1日の献立を立てている。お茶を好まない利用者には、スポーツドリンクやジュース等を常に準備している。自力摂取出来るように持ちやすい器やスプーンの大きさなど工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ではないが、利用者の状態に応じて随時行い、夕食後は基本的に行なっている。起床時から自分で出来る利用者には声かけによる促しを行い、介助が必要な利用者でも自分で義歯の着脱をしてもらえるよう声かけをし無理強にならない程度に援助している		



グループホーム おおみや

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の状況に合わせリハビリパンツや失禁パンツを使用し、随時の排泄誘導をしている。トイレの場所が分からない利用者には動きを見てさりげなく誘導をしている	パソコン内で利用者の排泄情報を共有し、その方の排泄リズムに合わせて支援しています。退院後などは特に尿意に繋がる様子や訴えを見逃さないよう努め、早期に改善できるよう支援しています。夜間オムツを使用している方も日中は紙パンツで過ごしてもらうなど、個々に合わせた支援方法を話し合いながら失敗無く現状が維持できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の利用者には毎朝、冷牛乳を提供している。また、間食に、さつまいも、バナナ、きな粉等を使って調理し提供している。体操も状況に応じて行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には希望時に入浴してもらっている。申し出のない利用者には、週2回は入っていただけるよう声かけを行っている。気持ちよく入浴していただけるように利用者に合った誘い方、介助をするよう心がけている	入浴は利用者が入りたい時に入ってもらい、少ない方でも週に2回以上は入ってもらえるよう支援しています。職員と歌を歌いながらゆっくり入ってもらったり、汗をかく夏場は多めに入ってもらっています。浴室の床はコルク製で冬でも暖かく、ヒノキの浴槽は利用者が入りやすいよう補助具を使用しています。入浴を拒む方は職員を交代したり、職員と温泉に入りに行くこともありその時々で柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく眠っていただけるように快適な温度を意識したりヒートショック等にならないよう配慮している。利用者に応じて、寒い季節には電気アンカや湯たんぽ等、家で寝ていた時と同じように個別の対応をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用については、最新の薬剤情報を事務所内のファイルに閉じている。変更等がある場合は、引継ぎノートやケア会議で情報を共有し状態に変化がないか等、通常より細かく観察し記録している。また、薬剤師や主治医から直接話を聞き確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を活かしてロールピクチャー、食材切り、洗濯物畳み、食器拭き、畑仕事や季節毎の行事も行うことで楽しみを持って生活してもらえるよう支援している。行事によっては、家族参加を依頼したり、ドライブや母体の喫茶にも参加し気分転換している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や利用者の状況に合わせ、随時、ドライブに出かけている。他、毎日の食材購入や保育園児との交流、利用者が学生時代に通っていた飲食店に足を運ぶ事もある	毎日利用者と買い物に出かけたり、職員が用事で出かける際にも一緒に出掛けています。季節の初詣や桜、紅葉狩り、アジサイ、チューリップなどの花見の他、地域行事やそばを食べに遠出したこともあります。気候が良い時期は日々近隣を散歩したり、ホームのテラスや菜園の世話など、外気に触れる機会も多く持っています。	



グループホーム おおみや

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、手元に現金を所持している利用者はないが、必要に応じて一緒に買物へ行き購入している。また、日常生活自立支援事業を利用している利用者は、定期、随時に通帳を確認したり金融機関へ支援員と同行したりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	同じ相手に電話や手紙が重複しないようスタッフが把握しその都度助言している。また、宛名書きがわからない時は、側で見守り助言している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間(玄関、食堂、居室前等)に花を飾る事で季節を感じてもらったり、家具等の配置を少なくすることで広さを確保しゆったりと過ごしてもらえるようにしている	広いウッドデッキや庭があるホーム内は明るく、随所に活けられた季節の草花や雛人形、利用者との共同作品なども飾られ温かく落ち着いた空間となっています。2カ所ある談話室には炬燵を置いたり、隣にある子ども園の様子や声も聞こえ、どちらも利用者や家族の来訪時などに憩いの場として利用されています。利用者が静かに過ごしたい時の居場所作りにも配慮し、寛いで過ごせるよう支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話コーナーにこたつを設置しゆっくりとテレビがみれるスペースを確保している。また、3箇所ソファを置き利用者が思い思いの場所でくつろげる空間作りを行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた布団、家具、その他物品を持ち込んで頂き、愛着のある物で落ち着ける環境になるように工夫している。以前はテレビをよく観ていたという利用者には家族と相談した上で居室にテレビを設置してもらい自分の好きな時に観て頂いている	居室は洋室と和室があり空いていれば生活習慣などに合わせて選ぶことができます。使い慣れた鏡台やタンス、テレビなどを持参されたり、家族が描いた絵や遺影、仏壇など大切な物を持参する方もいます。生活感あふれる居室もあり、利用者の習慣や生活スタイルを尊重した部屋作りを支援し、安心して過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂は十分なスペースをとりテーブルや椅子を設置し利用者の動きを妨げないようにしている。車椅子利用者には、椅子への座りなおしを行ったり、小柄な利用者には着席時に足置きを利用してもらったりしている。普段から、床が滑らないように注意を払ったり、段差、手すりにも配慮できるように意識している		